



アクア琵琶のマスコット
“ピワズ”くん



知・食・見・楽
川と湖を味方につけた
天下の水城、膳所城

◎コラム
琵琶湖講座リポート

◎ピワズピックス

琵琶湖湖岸の生態系回復への
取り組みについて

◎アクア琵琶 INFORMATION

親子の琵琶湖
たいけん教室

「わが心の風景、琵琶湖・淀川」 写真家—前野隆資の原点、 “ぴいあ”の風景

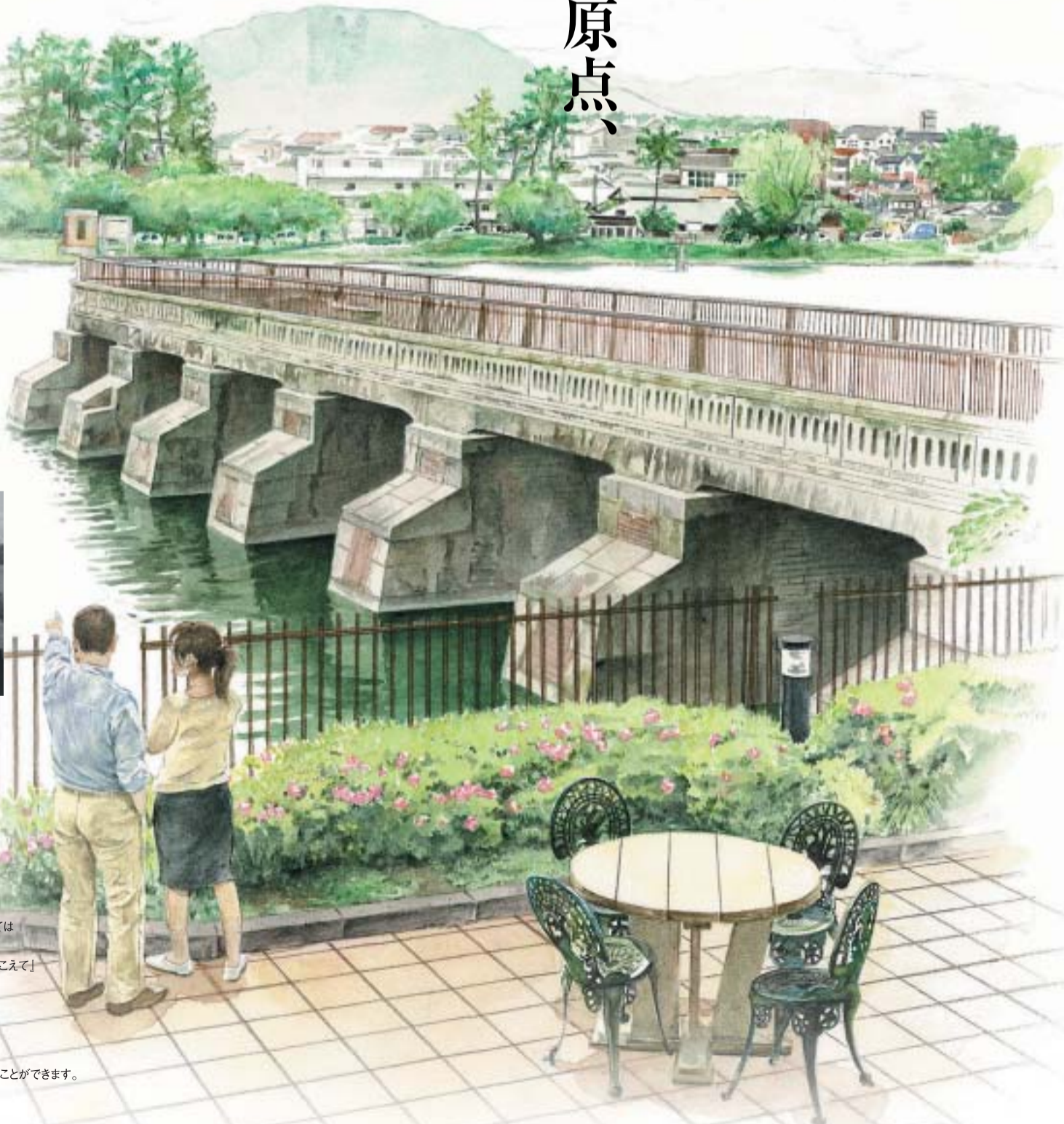


近江を撮り続けた前野氏愛用のカメラ

近江をこよなく愛し、日常の風景を撮り続けた前野隆資さん（1916年～1998年）は、生涯を通して約8万点の作品をのこしました。沖島の栈橋で鍋を洗う家族や乳母車をかたわらに瀬田川で洗濯をする女性など、暮らしの中のシーンを切り取りながらも、そこにはたくましく生きる人々への愛情があふれ、見る者に大きな感動を与えます。1985年に前野さんと出会った嘉田由紀子さん（現滋賀県知事）は、大学教授時代のホームページに『前野さんの写真の1枚1枚の撮影場所、撮影内容を伺いながら昭和30年代への思いをさせたひとときは、調査者冥利につきる時間だった』と記しています。

前野さんの代表作のひとつに、南郷洗堰から川に飛び込む少年の姿をとらえた写真があります。

喜久代夫人が当時を振り返り、次のように語ってくれました。「あの少年たちが、洗濯を『ぴいあ』と呼ぶのを聞いて、かつて技師たちが使った英語のピア（橋脚の意）が地元の人たちの間に広まったのだろうと教えてくれました。人々の何気ない会話に耳を傾け、道端に咲く小さな草花にも目を留める、そんな視点が前野の作品の原点だと思います」。



1957（昭和32）年8月大津市南郷（瀬田川右岸）
撮影：前野隆資 提供：琵琶湖博物館
表紙イラスト：アクア琵琶前（瀬田川左岸）

写真家

前野隆資（まえの・たかし）

1916年兵庫県明石市に生まれる。
1928年に滋賀県大津市に移り住む。
15歳の時に画家の父にすすめられ、写真を撮り始める。
以来、66年間に8万点以上の作品をのこす。
その作品はすべて琵琶湖博物館に収蔵され、
そのうちの近江の風景や暮らしをとらえた2万点については
CD化によって保存されている。
写真集に『琵琶湖・水物語 湖国の絆は時代（とき）をこえて』
『前野隆資写真集・レンズで綴る近江路60年』など、
関連著作多数あり。